

2025 年 12 月 12 日

東急不動産株式会社
Pacific Islands Development Corporation

開業 42 年目を迎えた「パラオ パシフィック リゾート」に 「ルーク ネイチャーセンター」 12 月 12 日オープン

～ネイチャーポジティブ戦略を具現化し、宿泊体験を「自然を再生する活動」へと昇華～

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：星野 浩明、以下「東急不動産」）および東急不動産の子会社である Pacific Islands Development Corporation（本社：パラオ共和国、President：丹下 慎也、以下「P.I.D.C.」、東急不動産と合わせて「東急不動産グループ」）がパラオ共和国内で運営するリゾート施設「パラオ パシフィック リゾート」（以下「本リゾート」）において、2025 年 12 月 12 日、新たなサステナブル・ツーリズムの拠点となるルーク ネイチャーセンター（以下「ルーク ネイチャーセンター」）をオープンしたことをお知らせいたします。



ルーク ネイチャーセンター

ルーク ネイチャーセンターはパラオの自然に関する展示や、パラオ パシフィック リゾートが誇るビーチや森の探検、環境や自然に関するワークショップ等のプログラムを通じ、パラオの美しい自然への理解を深め、環境への意識を育むことのできる施設です。

東急不動産グループは、長期ビジョン「GROUP VISION 2030」において「環境経営」を事業戦略の中核に据え、美しい地球を未来へつなぐことを宣言しました。パラオ共和国の独立前から同国の発展と共に歩んできた本リゾートの新たな施設は、「GROUP VISION 2030」でコミットした「ネイチャーポジティブの実現」に向けた、リゾート事業におけるフラッグシップ・プロジェクトです。

約半世紀にわたり築いてきたパラオとの信頼関係を礎に、環境配慮型リゾートとして積み重ねてきた取り組みを更に磨き上げ、お客様が主役となってパラオの大自然と人々による共生の叡智を体感していただける持続可能な観光「サステナブル・ツーリズム」のモデルを目指してまいります。

■ パラオの自然と共生し続けて半世紀 — 持続可能な観光の新たなステージへ

本リゾートは、今でこそ世界の潮流となった「サステナビリティ」を、その言葉が普及していなかった半世紀前から実践してきました。

「ヤシの木より高い建物は作るなよ」——。

東急不動産初代社長・五島昇のこの言葉に象徴されるように、本リゾートの開発コンセプトは当初から「自然保護と開発の両立」、そして「地元へ貢献し、地元の人々に受け入れられる事業」でした。

以来半世紀にわたり、パラオ人雇用・人材育成を始めとするパラオ経済への貢献に加え、環境に配慮した運営によりパラオにおける観光産業をリードし、世界におけるパラオの認知度向上に寄与しながら地域社会との深い信頼関係を築いてまいりました。

今回の「ルーク ネイチャーセンター」は、この長年にわたるパラオ共和国とのパートナーシップの集大成であり、パラオが守り続けてきた世界有数の自然を共に未来へ継承していくという、私たちの固い決意の表れです。

■ 新施設「ルーク ネイチャーセンター」のコンセプト — "Ridge to Reef"で自然のつながりを学ぶ

名称に込めた想い

「ルーク」はパラオ語で「Nest（巣）」を意味します。本リゾートが多様な生きものの「巣」であること。そしてこの「ルーク ネイチャーセンター」が、訪れる人々の知的好奇心を育み、自然との新たな関係性が生まれる「拠点（巣）」となることへの願いが込められています。

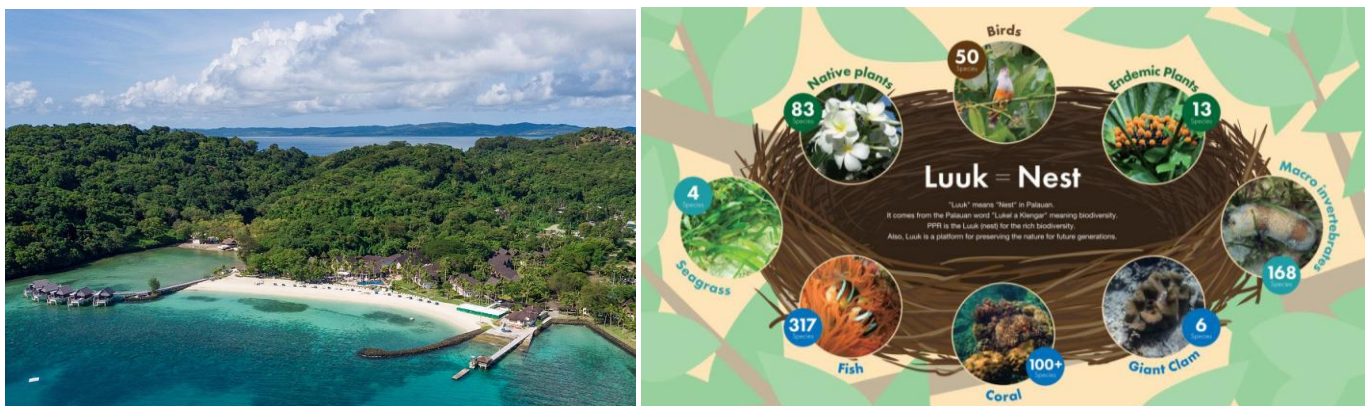
コンセプト「Ridge to Reef -ジャングルの里山からサンゴ礁の里海へ」

本リゾートのプライベートビーチには、591 種類以上の海の生き物が棲息しています。2002 年には、パラオ共和国コロール州から、プライベートビーチとしては類例のない海洋保護区に指定されました。私たちは、この海域を地球の貴重な資産として捉え、責任をもって管理してまいりました。こうした取り組みから、この海域は「里海」と呼ぶにふさわしいものだと考えています。

そのビーチの背後には適度に人の手が入った熱帯雨林が広がっており、この「里山」とも呼べる森には、パラオ固有の鳥 7 種類や在来植物 83 種類が息づいています。森は雨水などによる土砂の流出を防ぎ海の水質を守るとともに、海へ陸の恵みとしての栄養を送り込む役割も担っています。その結果、ビーチの浅瀬には藻場が広がり、沖合にはサンゴ礁が発達し、多様な海の生き物のゆりかごとなっています。

このように本リゾートには、陸と海が接する移行帯であり豊かな生態系を育む重要な環境「エコトーン」が展開しています。

私たちは、パラオの人々が大切にしてきた「Ridge to Reef（山から海までのつながり）」を身近に観察できる本リゾートの新施設を、生きとし生けるものの巣「ルーク」と名付けました。ここでは、様々な展示や専門知識を豊富に持つネイチャーガイドが、パラオの自然の魅力や意味、パラオに古くから伝わる数々の言い伝えなどをご紹介します。パラオの人々が育んできた独自の自然感の世界へとゲストの皆様を誘います。



本リゾートが誇る熱帯雨林とプライベートビーチ、そこに息づく生態系

■ 五感で学ぶプログラム ― 知的好奇心を満たす唯一無二の体験

「ルーク ネイチャーセンター」では、学びと感動に満ちたプログラムを提供します。自然の不思議や生物多様性の面白さ、そしてその大切さを知り、自然を守る意識が芽生え、環境保全について考えるきっかけとなる時間を体験いただけます。

以下はプログラムの一例で、今後順次追加更新してまいります。

【海の豊かさを学ぶ】シュノーケリング・エコツアー:

海洋学の知見を持つガイドと共に、サンゴ礁に暮らす生物を観察。海の生きものたちがどのように支え合い繋がりながら暮らしているか、また、生きものたちが暮らすサンゴ礁・藻場の役割や不思議を学びます。



シュノーケリング・エコツアーイメージ

【森と海のつながりを実感】トレイル・エコツアー:

本リゾートの裏山に広がる熱帯雨林の森を散策。パラオ固有の植物や野鳥のさえずりに耳を澄ませ、森の土壌がいかにして豊かな海を育むのか、その神秘的なメカニズムを五感で感じ取ります。



トレイル・エコツアーイメージ

【創造力で環境問題に貢献】海洋ごみアップサイクルワークショップ:

海岸に流れ着いたプラスチックを、美しいアクセサリやキーホルダーへと生まれ変わらせます。旅の思い出が、海洋汚染問題への意識を高めるきっかけとなる、創造的でサステナブルな体験です。

※2026 年春ごろより提供予定



海洋ごみアップサイクルワークショップイメージ

■ 未来への投資 — リゾート全体で推進する先進的プロジェクト

「ルーク ネイチャーセンター」は、リゾート全体で進めるサステナビリティ活動の司令塔の役割も担います。私たちは様々なパートナーと連携し、自然資本に投資しています。



サンゴ礁回復プロジェクト



ガラスリサイクルプロジェクト



(左から、P.I.D.C President 丹下慎也、Eyos Rudimch コロール州知事、
パラオ共和国コロール州政府廃棄物コンサルタント 藤勝雄氏)

- **【生物多様性】アジア開発銀行との大規模サンゴ礁回復プロジェクト（2025～2027 年）：**電気刺激でサンゴの成長を促進する「ミネラル付加技術（MAT）」を用い、本リゾート前のサンゴ被度を回復させる 3 年間の国際的プロジェクト。将来的にはお客様もサンゴ植え付けに参加できるプログラムを計画しており、「消費する観光」から「再生する観光」への転換を象徴します。
- **【循環型経済】琉球大学と連携した循環型食物生産「アクアポニックス」プロジェクト：**魚の排出物を栄養に野菜を育てる、水と資源を有効活用する半閉鎖循環型システムを導入した、琉球大学 COI-NEXT との連携プロジェクトを開始しました。将来的には収穫された食材のホテル内での活用を予定しています。
- **【資源循環】地域と連携したサーキュラーエコノミーの実現：**コロール州リサイクルセンターと連携し、リゾートで出た廃棄ガラス瓶をリゾート内で使用するビアマグ等に再生する**ガラスリサイクル**で資源循環社会の構築を目指します。

- **【脱炭素】沖縄電力グループと連携した再生可能エネルギー導入:** 沖縄電力グループとの協業による太陽光発電設備（施設内エネルギーの約 2 割を供給）の導入により、島しょ地域における持続可能な再生可能エネルギーシステムのモデルケースを実現するとともに、パラオ共和国政府が掲げるカーボンニュートラル目標※の達成に貢献します。

※パラオ共和国は、現在電力の大半をディーゼル発電で供給しており、同国政府が掲げる再生可能エネルギー割合を 2025 年までに 45%、2050 年までに 100%にする目標（出典：IRENA『Republic of Palau: Renewable Energy Roadmap 2022-2050』）を達成するためには、再生可能エネルギー普及の加速化が必要とされています。

本リゾートは「ルーク ネイチャーセンター」を拠点として、これからもパラオの豊かな自然と文化を守りながら、訪れるお客様に忘れられない感動と学びを提供してまいります。そして、本リゾートでの滞在そのものが美しい島の未来をより豊かにすることに繋がる「サステナブル・デスティネーション」となることを目指し、挑戦を続けます。

■ 東急不動産のリゾート事業における「TCFD/TNFD レポート（統合版・第 2 版）」公開

自然関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures,以下「TNFD」）が提示するフレームワークに沿って、本リゾートの自然資本に関わるインパクトと依存、リスクと機会に関してとりまとめたレポート（以下「本レポート」）を本日公開いたしました。本レポートでは、生物多様性定量分析のスタートアップ 株式会社シンク・ネイチャーによる評価を含めて分析を行った結果、本リゾートの開発・運営がネイチャーポジティブに貢献していると評価されております。TNFD レポートは以下、URL からご覧ください。

TNFD 提言に基づく開示 URL：[3d2da3791f89419a9591e0d8fb9261414d5b53d5.pdf](https://www.tokai-realty.co.jp/3d2da3791f89419a9591e0d8fb9261414d5b53d5.pdf)

■ 「パラオ パシフィック リゾート」について

パラオ共和国は、フィリピンの南東 650 km に位置する 200 を超える島からなる国です。多種多様な海洋生物が息づく世界屈指のダイビングスポットとして有名なパラオは、各所に残る数多くの史跡や戦跡を目的とした観光客も多く訪れており、今後さらなる観光市場の成長が期待されています。

開業 42 年目を迎えた本リゾートは、様々な植物や動物が棲息する山林やトロピカルガーデンのほか、色鮮やかな海洋生物の棲み処となっているプライベートビーチを有し、パラオの自然と文化を体感することができます。2015 年にはミクロネシア地域初の水上バンガロー 5 棟 5 室、2019 年にはパラオ初となる独立型プールヴィラ 7 室等を含む新エリア『The Pristine Villas and Bungalows at Palau Pacific Resort』を開業し、パラオ国内最多の客室を有するリゾートホテルとして親しまれています。

■ 「パラオ パシフィック リゾート」開業時から続く環境取り組み

本リゾートは、開業時から今日に至るまで「自然環境の保護と開発の両立」を掲げ、環境保護の取り組みを行ってきました。ホテル建設にあたっては敷地内の樹木をできる限り残し、建物の高さをヤシの木よりも低く設計することで周囲の自然環境との調和を図っているほか、雨水による泥土の流出などによりサンゴが育ちにくい環境だった前面の海は、水路や海流を改善することで瀕死状態だったサンゴを再生し、現在ではパラオ共和国コロール州による海洋生物保護区に指定されています。また、敷地内の水源を利用した安全な飲料水の確保と水資源保護、排熱交換システムの導入などを通して、環境にやさしいホテル運営に努めています。



<パラオ パシフィック リゾート 施設概要>

敷地面積： 275,382 ㎡

延床面積： 19,226 ㎡

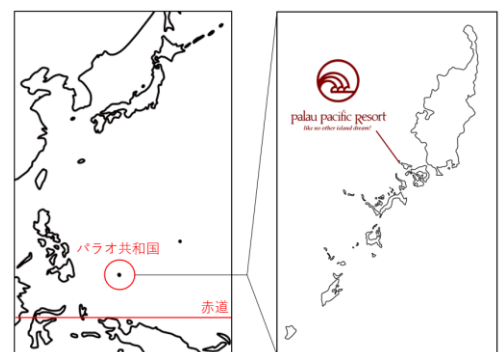
客 室 数： 172 室

所 在 地： Koror, Republic of Palau 96940

開 業： 1984 年 12 月 10 日

U R L： <https://www.palauppr.com/>

※ 「The Pristine Villas and Bungalows at Palau Pacific Resort」 も含みます。



■ 長期ビジョン「GROUP VISION 2030」でめざす、生物多様性の取り組み

東急不動産ホールディングスは 2021 年に長期ビジョン「GROUP VISION 2030」を発表しました。多様なグリーンで 2030 年にありたい姿を実現していく私たちの姿勢を表現する「WE ARE GREEN」をスローガンに、「環境経営」「DX」を全社方針として取り組んでいます。

東急不動産ホールディングスグループの中核企業である東急不動産では、「環境先進企業」をめざして「脱炭素社会」「循環型社会」「生物多様性」を主要な 3 つ環境課題とし、事業を通じて様々な取り組みを積極的に

進めています。中でも「生物多様性」は、土地や様々な資源の利用、自然によるレクリエーションや人々のゆとり・癒しや生産性の向上、そして資産価値向上など、多様な側面で自然に依存し、インパクトを与えながら事業が成り立っていることから、重要な課題と認識し、2011 年に生物多様性方針を策定するなど、早期より自然と共生する取り組みを継続的に実施してきました。

また、「地域特性を踏まえたネイチャーポジティブへの貢献」を目標に掲げ、都市においては、都市に点在する緑を繋ぐ、人と自然に配慮した緑化、地方においては、生態系サービスとの共存を取り組み目標として、不動産開発・運営管理を行っています。

今後も、重点課題への取り組みを通じて、お客様へ環境価値を提供し、事業を通じた循環型社会の実現を目指してまいります。

東急不動産ホールディングス「GROUP VISION 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/group-vision-2030/>

東急不動産ホールディングス「中期経営計画 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/ir/mgtpolicy/mid-term-plan>

■私たちが提供する「体感型サステナブルリゾート」

東急不動産・東急リゾート＆ステイ・東急リゾートの3社は「体感型サステナブルリゾート」として、3つのテーマ「体験」・「地域」・「環境」に基づいた、楽しみながら地球や地域に優しく過ごせるサステナブルな空間や体験・活動を、施設を訪れるお客様やステークホルダーの皆様へ提供していきます。

「体感型サステナブルリゾート」のコンセプトや、当社リゾート施設で提供している環境体験を紹介する WEB サイトはこちらから

ENJOY ! GREEN GUIDE

URL | <https://www.tokyu-green-resort.com/>

